

景気動向調査結果報告書 【やお景況レポート】

2016年 第Ⅲ・四半期(7~9月) VOL. 82

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1．製造業の景気動向	5
2．非製造業の景気動向	9
3．情報機器等の利用について	12
4．経営上の問題点・業界の動向など	16

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2016年9月実施）の調査で82回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業607社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）393社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は、下表に示すとおり、製造業が34.4%、非製造業が24.7%、全体では30.6%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社 1,000社）。

表1. 業種別回答状況

業 種 名	発送数	回答数	回答率
金 属 製 品	153	55	35.9%
機 械 器 具	174	66	37.9%
その他の製造業	280	88	31.4%
製造業計	607	209	34.4%
建 設 業	118	32	27.1%
卸 売 業	67	21	31.3%
小 売 業	66	11	16.7%
サ ー ビ ス 業	142	33	23.2%
非製造業計	393	97	24.7%
合 計	1,000	306	30.6%

表2. 規模別回答状況

規模別	製 造 業			非 製 造 業			全 体		
	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率
5～19人	350	106	30.3%	291	60	20.6%	641	166	25.9%
20～49人	169	62	36.7%	61	26	42.6%	230	88	38.3%
50～99人	51	25	49.0%	22	6	27.3%	73	31	42.5%
100～299人	30	13	43.3%	12	2	16.7%	42	15	35.7%
300人以上	7	3	42.9%	7	3	42.9%	14	6	42.9%
合 計	607	209	34.4%	393	97	24.7%	1,000	306	30.6%

【調査結果の総括】

～景気の腰折れは回避～

7～9月期の八尾市の業況判断DI¹は、全産業で3と前回調査比11ポイントの改善となり(6月=8 9月=3、はマイナスを表す、以下同様)2016年1～3月期からの悪化傾向に歯止めがかかった。業種別にみると、製造業は前回調査において全般的に落ち込んだが、今回調査では14ポイントの大幅改善となった(6月=11 9月=3)。非製造業も、小売業の11ポイント改善(6月=11 9月=±0)と卸売業の10ポイント改善(6月=21 9月=11)を中心に、2ポイント改善(6月=±0 9月=2)した。

DIの推移からここ1年ほどの八尾の景気動向を振り返ると、昨年後半は持ち直し傾向にあったものが、本年は1～3月期、4～6月期と2四半期続けて悪化し、年前半は停滞感が強まった。しかし、今回調査では3四半期ぶりにDIが改善し、景気の腰折れはひとまず回避された格好となった。企業マインド好転の背景には、海外経済の減速に歯止めがかかりつつあることや、熊本地震の影響一巡、経済対策による景気下支え効果への期待などもあるとみられる。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	2015年10～12月期		2016年1～3月期		2016年4～6月期		今回 2016年7～9月期		天気図 前回比較
全産業		<8>		<3>		<▲8>		<3>	
製造業		<4>		<2>		<▲11>		<3>	
金属製品		<±0>		<▲7>		<▲12>		<▲10>	
機械器具		<4>		<▲3>		<▲13>		<4>	
その他の製造業		<7>		<13>		<▲11>		<11>	
非製造業		<18>		<6>		<±0>		<2>	
建設業		<35>		<38>		<22>		<15>	
卸売業		<▲20>		<▲19>		<▲21>		<▲11>	
小売業		<12>		<9>		<▲11>		<±0>	
サービス業		<22>		<▲8>		<±0>		<±0>	

(注)<>内は業況判断DI。景況天気図で示した景況判断は、業況判断DI値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、DI値がプラス10以上であれば晴れ、0～9は薄日、▲10～▲1は曇り、▲20～▲11は小雨、▲21以下は雨とした。
図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、が好転、が横ばい、が悪化を示す。

¹ DIは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断DI」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断DI」以外の項目(「生産額」、「出荷額」など)は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「-」と表している。

日銀短観²（2016年9月調査）における全国および近畿の業況判断DI（全産業・全規模）は、双方とも前回調査より1ポイントの改善となった。これに対し、八尾の業況判断DI（全産業・全規模）は11ポイントの改善と急回復しているが、これは前回調査において製造業が大きく落ち込んだことの反動と考えられ、均してみれば全国・近畿とさほど大きな差はないと考えられる。前回調査時は、熊本地震の影響懸念、英国のEU離脱に伴うEU経済への不安感の台頭、などの要因があり、こうした想定外の出来事に対し、八尾のDIは敏感に反応していると考えられる（図2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

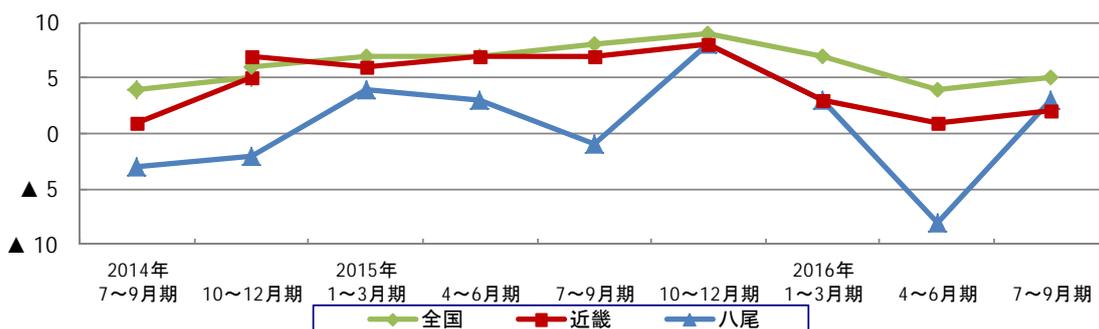


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

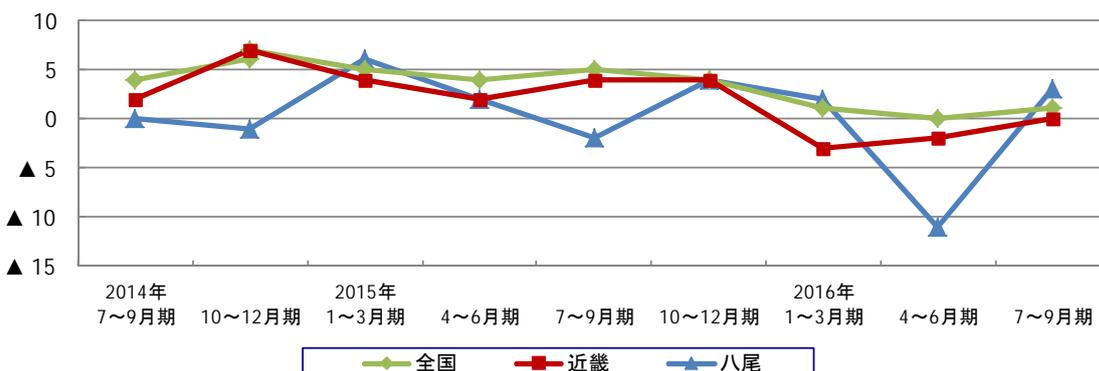
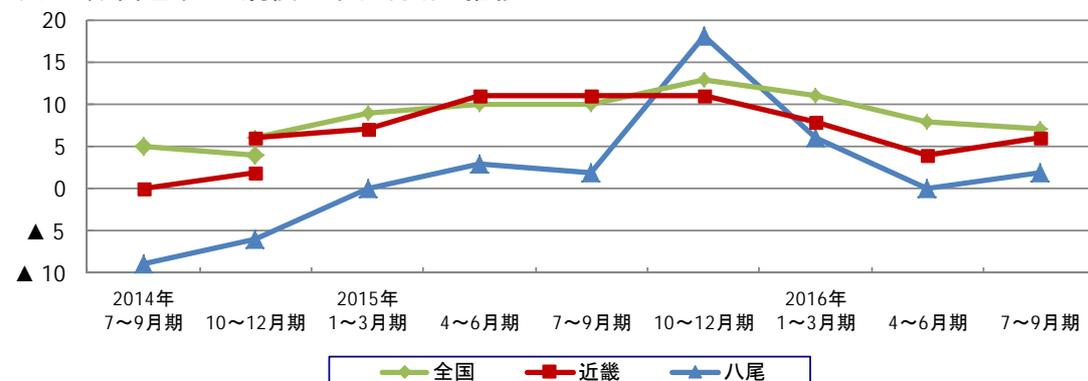


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



(資料) 日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

(注) 短観は2015年3月調査より調査対象企業の見直しがあり、2014年12月調査で新・旧ベースを接続しているため、乖離が生じている。

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のDI³で確認すると(図5～6)「設備投資額」は製造業、非製造業ともにマイナス圏内の動きにとどまるもののマイナス幅が縮小しており、底堅さがみられる動きとなっている。設備投資をとりまく状況を見ると、製造業では、「生産額」や「製品販売価格」のDIのマイナス幅が縮小しており、業績面での落ち込み軽減が投資姿勢の慎重化回避につながっているとみられる。一方、非製造業では「売上額」、「販売先数・客数」の回復が進んでおらず、先行きには設備投資が慎重化する懸念が残る結果となった。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

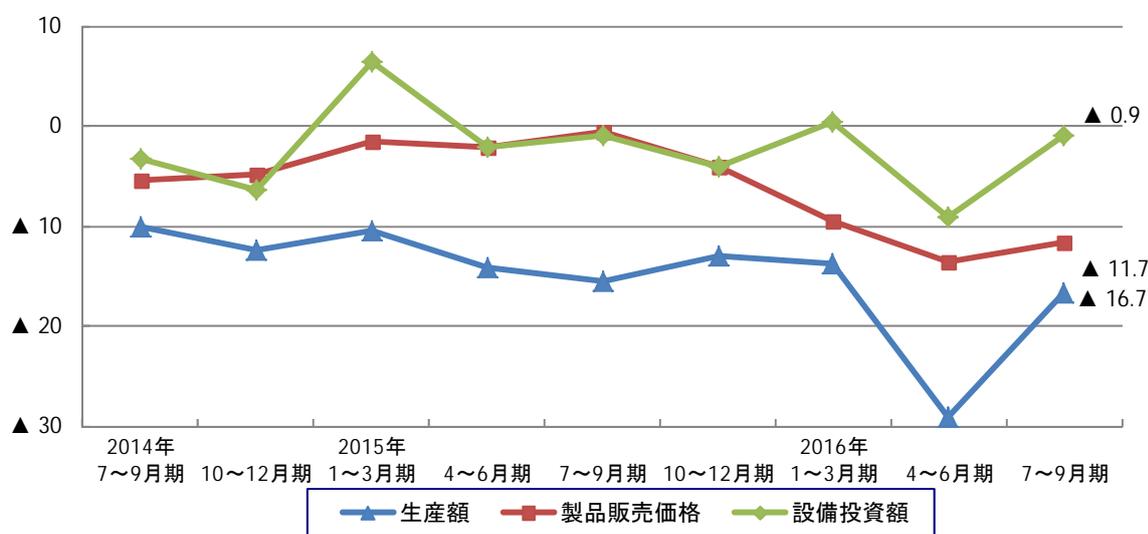
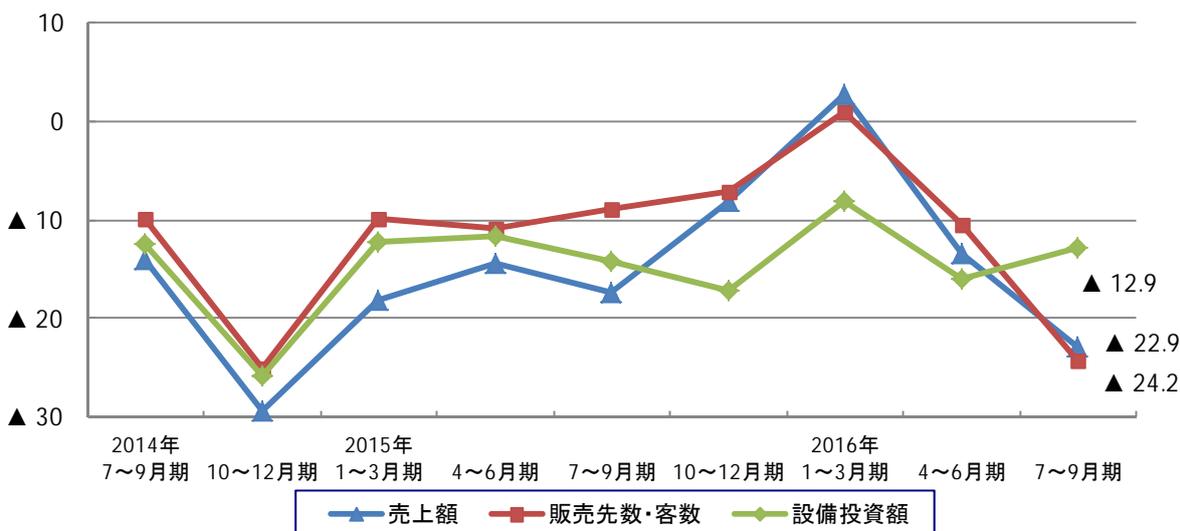


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」DIは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



薄日

(今回)



【生産額】

製造業の2016年7～9月期における生産額D I（前期比、「増加」-「減少」）は17.4とマイナスが続き減産局面から脱していないが、マイナス幅は8.0ポイント縮小し（前々回15.8 前回25.4 今回17.4）、悪化のスピードは低下した。業種別にみると、すべての業種がマイナスではあるが、機械器具やその他の製造業でマイナス幅の縮小がみられた。

表3. 生産額(前期比)

業種	当期の生産額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金属製品	54	7.4	55.6	37.0	▲ 29.6	▲ 20.7
機械器具	66	15.2	50.0	34.8	▲ 19.6	▲ 30.4
その他の製造業	87	23.0	46.0	31.0	▲ 8.0	▲ 24.4
製造業計	207	16.4	49.8	33.8	▲ 17.4	▲ 25.4

前年同期と比べた生産額D Iは16.7と、マイナス(減少超)が続いたがマイナス幅は縮小した(前々回13.7 前回29.1 今回16.7)。業種別でみると、すべての業種がマイナスであり、金属製品はマイナス幅が拡大した一方、その他の製造業はマイナス幅が大きく縮小した。

表4. 生産額(前年同期比)

業種	当期の生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金属製品	55	16.4	41.8	41.8	▲ 25.4	▲ 19.3
機械器具	66	21.2	36.4	42.4	▲ 21.2	▲ 30.0
その他の製造業	88	31.8	28.4	39.8	▲ 8.0	▲ 34.4
製造業計	209	24.4	34.5	41.1	▲ 16.7	▲ 29.1

【出荷額】

7～9月期の出荷額D I（前期比、「増加」-「減少」）は20.3となり、マイナスが続いた(前々回18.9 前回27.6 今回20.3)。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスであった。

表5. 出荷額

業種	当期の出荷額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金属製品	54	7.4	55.6	37.0	▲ 29.6	▲ 24.1
機械器具	66	15.2	45.4	39.4	▲ 24.2	▲ 30.0
その他の製造業	87	23.0	42.5	34.5	▲ 11.5	▲ 28.0
製造業計	207	16.4	46.9	36.7	▲ 20.3	▲ 27.6

【 製品在庫 】

7～9月期の製品在庫D I（前期比、「不足」-「過剰」）は 12.1 と前回調査比マイナス幅（過剰超）が拡大、在庫過剰感を抱える状況が続いている（前々回 3.3 前回 9.1 今回 12.1）。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスで推移した。

表6. 製品在庫

業 種	当期の製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		不足	適正	過剰		
金 属 製 品	50	4.0	80.0	16.0	▲ 12.0	▲ 3.7
機 械 器 具	65	4.6	78.5	16.9	▲ 12.3	▲ 7.4
その他の製造業	84	4.8	78.5	16.7	▲ 11.9	▲ 13.7
製造業計	199	4.5	78.9	16.6	▲ 12.1	▲ 9.1

【 原材料仕入価格 】

7～9月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」-「値下」）は 2.9 と、プラス（値上超）で推移したが変化幅は小幅に縮小し（前々回 1.6 前回 4.2 今回 2.9）価格上昇傾向には落ち着きが見られる。業種別には、機械器具とその他の製造業はプラスが続いたが、金属製品がマイナス（値下超）に転じた。

表7. 原材料仕入価格

業 種	当期の原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	54	5.6	79.6	14.8	▲ 9.2	±0
機 械 器 具	66	10.6	84.9	4.5	6.1	3.0
その他の製造業	85	14.1	80.0	5.9	8.2	7.9
製造業計	205	10.7	81.5	7.8	2.9	4.2

【 製品販売価格 】

7～9月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」-「値下」）は 9.3 と、マイナス（値下超）が続き（前々回 11.1 前回 10.8 今回 9.3）値下げ圧力は根強い。業種別では、全ての業種でマイナスとなったが、機械器具やその他の製造業ではマイナス幅が縮小した一方で、金属製品のマイナス幅が大幅に拡大した。

表8. 製品販売価格(前期比)

業 種	当期の製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	54	0.0	75.9	24.1	▲ 24.1	▲ 5.1
機 械 器 具	66	4.5	84.9	10.6	▲ 6.1	▲ 17.6
その他の製造業	85	4.7	88.2	7.1	▲ 2.4	▲ 9.1
製造業計	205	3.4	83.9	12.7	▲ 9.3	▲ 10.8

前年同期と比べた製品販売価格D Iは 11.7 と、マイナス（値下超）が続いた（前々回 9.5 前回 13.5 今回 11.7）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業 種	当期の製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		値上	横這	値下		
金 属 製 品	53	0.0	73.6	26.4	▲ 26.4	▲ 13.8
機 械 器 具	65	7.7	70.8	21.5	▲ 13.8	▲ 17.1
その他の製造業	87	5.7	87.4	6.9	▲ 1.2	▲ 10.2
製造業計	205	4.9	78.5	16.6	▲ 11.7	▲ 13.5

【 採算状況 】

7～9月期の採算状況D I（前期比、「好転」 - 「悪化」）は 19.3 と、マイナス（悪化超）で推移し採算状況は悪化傾向である（前々回 19.1 前回 17.7 今回 19.3）。業種別の内訳をみると、全ての業種がマイナスであった。

表10. 採算状況

業 種	当期の採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	55	3.6	58.2	38.2	▲ 34.6	▲ 19.3
機 械 器 具	66	10.6	59.1	30.3	▲ 19.7	▲ 18.5
その他の製造業	87	18.4	54.0	27.6	▲ 9.2	▲ 15.9
製造業計	208	12.0	56.7	31.3	▲ 19.3	▲ 17.7

【 資金繰り 】

7～9月期の資金繰りD I（前期比、「好転」 - 「悪化」）は 8.7 とマイナス（悪化超）幅が拡大し、資金繰りは厳しくなっている（前々回 9.5 前回 2.8 今回 8.7）。業種別の内訳をみると、金属製品とその他の製造業は再びマイナスに転じ、機械器具もマイナスが続いた。

表11. 資金繰り

業 種	当期の資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	55	3.6	80.0	16.4	▲ 12.8	±0
機 械 器 具	64	7.8	73.4	18.8	▲ 11.0	▲ 10.0
その他の製造業	87	17.2	61.0	21.8	▲ 4.6	1.1
製造業計	206	10.7	69.9	19.4	▲ 8.7	▲ 2.8

【 受注状況 】

7～9月期の受注状況DI（前期比、「好転」 - 「悪化」）は 21.2 と、マイナス（悪化超）が続き（前々回 22.6 前回 25.0 今回 21.2）受注の改善は遅れている。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスであった。

表12. 受注状況

業 種	当期の受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	54	9.3	57.4	33.3	▲ 24.0	▲ 27.6
機 械 器 具	66	15.2	45.4	39.4	▲ 24.2	▲ 23.2
その他の製造業	87	18.4	46.0	35.6	▲ 17.2	▲ 24.7
製造業計	207	15.0	48.8	36.2	▲ 21.2	▲ 25.0

【 設備投資額 】

7～9月期の設備投資額DI（前年同期比、「増加」 - 「減少」）は 0.9 と、マイナス（減少超）の域を脱していないものの、マイナス幅は縮小した（前々回 0.5 前回 9.1 今回 0.9）。業種別には、金属製品と機械器具はマイナスが続いた一方、その他の製造業はプラスに転じた。

表13. 設備投資額

業 種	当期の設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		増加	横這	減少		
金 属 製 品	54	13.0	64.8	22.2	▲ 9.2	▲ 10.7
機 械 器 具	66	15.2	57.5	27.3	▲ 12.1	▲ 10.3
その他の製造業	87	24.1	64.4	11.5	12.6	▲ 7.0
製造業計	207	18.4	62.3	19.3	▲ 0.9	▲ 9.1

【 向こう3カ月の景況 】

7～9月期における向こう3カ月の景況判断DI（「好転」 - 「悪化」）は 8.2 と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回 18.5 前回 20.9 今回 8.2）。業種別の内訳をみると、金属製品と機械器具ではマイナスが続いたが、その他の製造業はプラスに転じた。

表14. 向こう3カ月の景況

業 種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			D I	前回D I
		好転	横這	悪化		
金 属 製 品	55	12.7	60.0	27.3	▲ 14.6	▲ 20.7
機 械 器 具	65	16.9	46.2	36.9	▲ 20.0	▲ 23.2
その他の製造業	86	22.1	60.5	17.4	4.7	▲ 19.4
製造業計	206	18.0	55.8	26.2	▲ 8.2	▲ 20.9

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は
(前回)



薄日
(今回)



建設業

景況天気図は
(前回)



晴れ
(今回)



7～9月期の状況を各種DI（前期比）で見ると、売上額がプラス（増加超）に転じ、受注状況がプラス（好転超）となるなど、一部に明るさもみられるものの、労務費や資材仕入価格は高止まりしており、採算状況はマイナス（悪化超）が続き、手放して喜べる状況とまではいえない。向こう3カ月の景況はマイナス（悪化超）が続いたが、マイナス幅は縮小した。

前年同期比DIをみると、売上額や受注状況はマイナスに転じた。設備投資額はマイナス（減少超）が続いた。

表15. 建設業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化			
前期比	売上額	32	25.0	56.2	18.8	6.2	▲ 6.7
	資材仕入価格	32	18.8	81.2	0.0	18.8	30.0
	労務費	32	18.8	81.2	0.0	18.8	23.3
	工事引合件数	32	18.8	62.4	18.8	±0	3.3
	受注単価	32	15.6	68.8	15.6	±0	±0
	採算状況	32	6.3	78.1	15.6	▲ 9.3	▲ 10.0
	資金繰り	32	9.4	87.5	3.1	6.3	3.3
	受注状況	32	18.8	65.6	15.6	3.2	±0
向こう3カ月の景況	32	15.6	53.1	31.3	▲ 15.7	▲ 23.4	
前同期年比	売上額	32	12.5	71.9	15.6	▲ 3.1	20.0
	受注状況	31	9.7	70.9	19.4	▲ 9.7	3.3
	設備投資額	30	6.7	73.3	20.0	▲ 13.3	▲ 10.8

卸売業

景況天気図は

(前回)



(今回)

小雨



7～9月期を前期と比べると、売上額は引き続きマイナス（減少超）であった。販売先数・客数、客単価ともに落ち込んでいる。一方、商品仕入価格がマイナス（値下超）に転じ、商品販売価格が±0と下げ止まりの動きがみられるなど好材料もでており、採算状況のDIはマイナス幅が縮小した。向こう3カ月の景況は引き続きマイナスではあるが、マイナス幅は縮小した。

前年同期とのDIの比較でみると売上額はマイナス幅が拡大し、販売先数・客数は再びマイナスに転じた。企業業績はこのように厳しい状況ではあるものの、設備投資額については±0と下げ止まりの動きがみられ、前回調査で慎重化した投資姿勢のさらなる悪化は回避されている。

表16. 卸売業の景気動向

景気動向指標	回答数	構成比(%)			DI	前回DI	
		増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化			
前期比	売上額	21	19.0	33.4	47.6	▲ 28.6	▲ 22.7
	販売先数・客数	21	14.3	61.9	23.8	▲ 9.5	▲ 4.6
	客単価	21	4.8	80.9	14.3	▲ 9.5	▲ 18.2
	商品仕入価格	21	4.8	80.9	14.3	▲ 9.5	22.7
	商品在庫	21	0.0	76.2	23.8	▲ 23.8	▲ 22.8
	商品販売価格	21	9.5	81.0	9.5	±0	▲ 18.2
	採算状況	21	9.5	66.7	23.8	▲ 14.3	▲ 36.4
	資金繰り	21	9.5	71.5	19.0	▲ 9.5	▲ 13.7
	粗利益率	21	14.3	61.9	23.8	▲ 9.5	▲ 40.9
	向こう3カ月の景況	21	14.3	52.4	33.3	▲ 19.0	▲ 27.3
前同期年比	売上額	21	28.6	19.0	52.4	▲ 23.8	▲ 13.7
	販売先数・客数	21	19.0	47.7	33.3	▲ 14.3	9.1
	設備投資額	21	19.0	62.0	19.0	±0	▲ 22.7

小売業

景況天気図は

(前回)



(今回)

薄日



7～9月期は、前期と比べると客単価が再びマイナス（減少超）に転じたものの、販売先数・客数はマイナス（減少超）幅が大きく縮小したことから、売上額のマイナス幅も縮小した。商品仕入れ価格はプラスが続き、販売価格の値上げに踏み切らざるを得ない状況にはあるものの、客単価の上昇にはつながっておらず、採算状況の好転は遅れ気味である。もっとも向こう3カ月の景況は前回のマイナス（悪化超）から±0となり、下げ止まることが期待されている。

前年同期との比較では、売上額、販売先数・客数、設備投資額ともにマイナスが続いたものの、マイナス幅は縮小した。

表17. 小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期 比	売上額	11	27.3	27.2	45.5	▲ 18.2	▲ 33.4
	販売先数・客数	11	27.3	36.3	36.4	▲ 9.1	▲ 58.3
	客単価	11	0.0	90.9	9.1	▲ 9.1	±0
	商品仕入価格	11	36.4	63.6	0.0	36.4	25.0
	商品在庫	11	0.0	90.9	9.1	▲ 9.1	8.4
	商品販売価格	11	9.1	90.9	0.0	9.1	▲ 33.4
	採算状況	11	18.2	54.5	27.3	▲ 9.1	▲ 25.0
	資金繰り	11	18.2	63.6	18.2	±0	16.6
	粗利益率	11	9.1	81.8	9.1	±0	▲ 16.6
	向こう3カ月の景況	11	18.2	63.6	18.2	±0	▲ 36.4
前同 期 年 比	売上額	11	27.3	18.2	54.5	▲ 27.2	▲ 58.3
	販売先数・客数	11	18.2	36.3	45.5	▲ 27.3	▲ 50.0
	設備投資額	11	0.0	90.9	9.1	▲ 9.1	▲ 25.0

サービス業

景況天気図は 薄日

(前回)  → (今回) 

7～9月期を前期と比べると、客数がマイナス（減少超）に転じ、客単価もマイナス幅が拡大した。この結果、売上額はマイナス（減少超）幅が拡大した。採算状況は再びマイナスとなった。もっとも、向こう3カ月の景況は、依然としてマイナス（悪化超）圏内にとどまっているものの、マイナス幅は縮小した。

前年同期との対比では、売上額、客数、設備投資額ともマイナス（減少超）幅が拡大した。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期 比	売上額	33	12.1	51.5	36.4	▲ 24.3	▲ 12.9
	客数	33	6.1	60.6	33.3	▲ 27.2	9.4
	客単価	32	9.4	62.5	28.1	▲ 18.7	▲ 6.2
	採算状況	32	3.1	62.5	34.4	▲ 31.3	±0
	資金繰り	31	9.7	67.7	22.6	▲ 12.9	▲ 3.2
	粗利益率	31	6.5	51.6	41.9	▲ 35.4	▲ 21.8
	向こう3カ月の景況	32	15.6	53.1	31.3	▲ 15.7	▲ 34.4
前同 期 年 比	売上額	32	9.4	40.6	50.0	▲ 40.6	▲ 28.1
	客数	32	3.1	50.0	46.9	▲ 43.8	▲ 21.9
	設備投資額	31	12.9	51.6	35.5	▲ 22.6	▲ 12.9

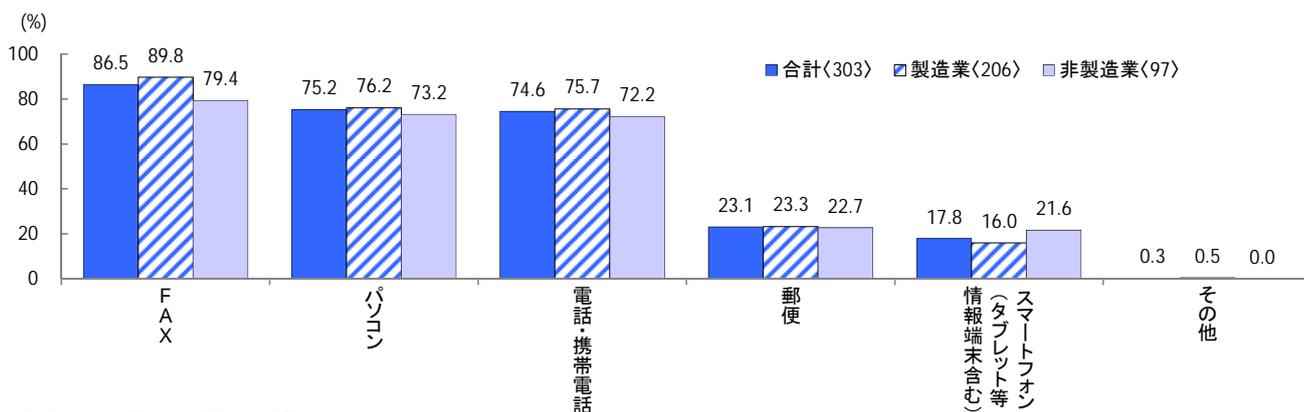
3. 情報機器等の利用について

(1) 受発注や取引等への利用

受発注や取引等における情報機器等の利用状況について尋ねたところ、全体（回答事業所数は303）では「FAX」を挙げた事業所が86.5%、次いで「パソコン」（75.2%）、「電話・携帯電話」（74.6%）と、この3つを挙げる企業が多かった（図7）。一方、「郵便」は23.1%、「スマートフォン」などモバイル機器は17.8%にとどまった。FAXや電話などの、自社のデータベースに入力するために人手を要する方法が、受発注や取引等において今なお主流な手段であることがみてとれる。

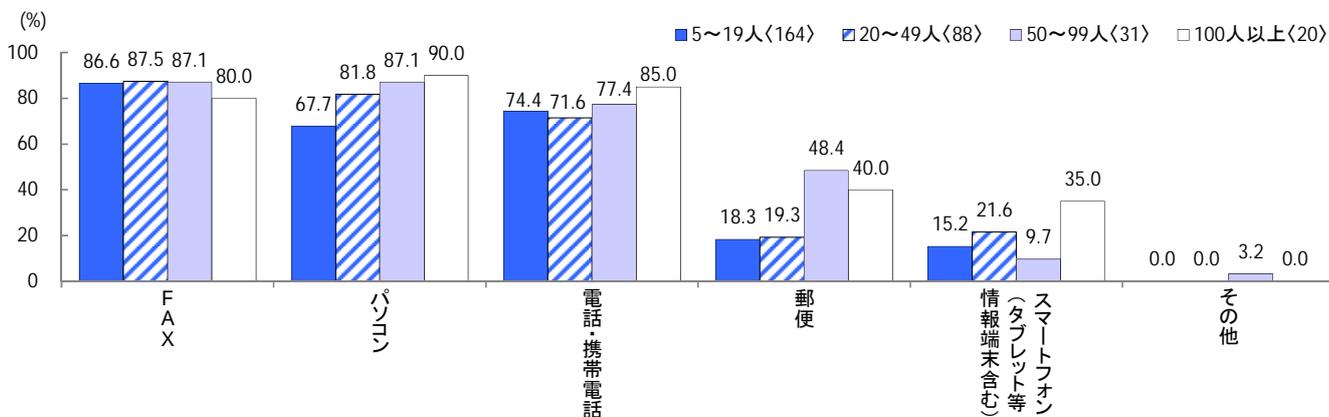
事業所規模別にみると、とりわけパソコンについて、従業員規模の小さい事業所になるほど利用割合が低いことが目立つ（図8）。

図7. 受発注や取引等に利用する情報機器（複数回答）



(注)〈 〉内は回答事業所数。複数回答。

図8. 受発注や取引等に利用する情報機器（規模別）



(注)〈 〉内は回答事業所数。複数回答。

(2) パソコン・スマートフォン等の社内業務での利用状況

パソコンやスマートフォンなどのデータ処理や通信が可能な情報機器の社内業務での利用状況を尋ねたところ、全体（回答事業所数は306）では「経理・財務・労務管理」（81.7%）、次いで「文書管理」（74.5%）、「販売・顧客管理」（69.0%）、「生産・在庫管理」（52.9%）が上位に挙げられた（図9）。他方、このような業務管理面での利用に比べると、「製品・サービス開発」は19.3%と相対的に低位にとどまり、付加価値を生み出す仕組みへの利用は限定的にとどまった。

業種別にみると、全体で上位に挙げられた「経理・財務・労務管理」、「文書管理」、「販売・顧客管理」業務については、製造業、非製造業ともに主な用途として挙げられている。「生産・在庫管理」や「図面作成」を挙げた事業所割合は製造業に比べて非製造業は低めとなっているものの、詳しくみると、非製造業のなかでも卸売業は「生産・在庫管理」への利用、建設業は「図面作成」への利用は高めであり、事業特性によって違いがあることがわかる（図10）。

規模別にみると、いずれの業務においても事業所規模の小さい事業所では情報機器の利用が低調であった（図11）。

図9. パソコン・スマートフォン等の社内業務での利用状況(業種別)

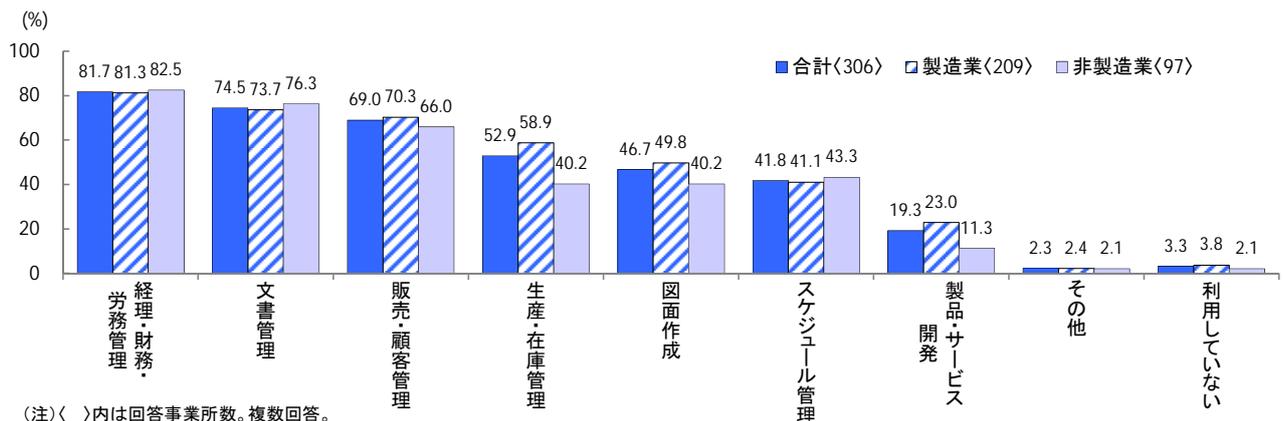


図10. パソコン・スマートフォン等の社内業務での利用状況(非製造業内訳)

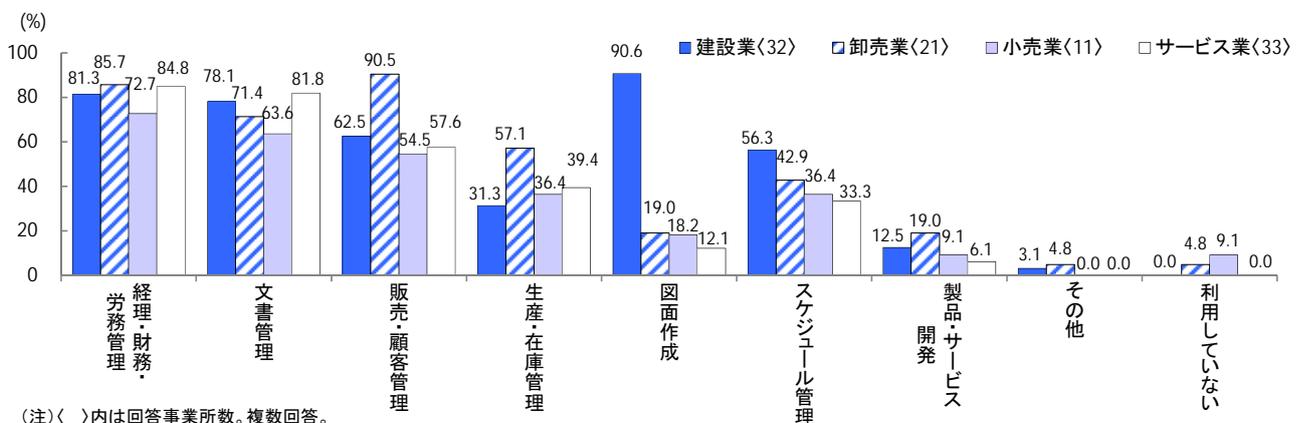
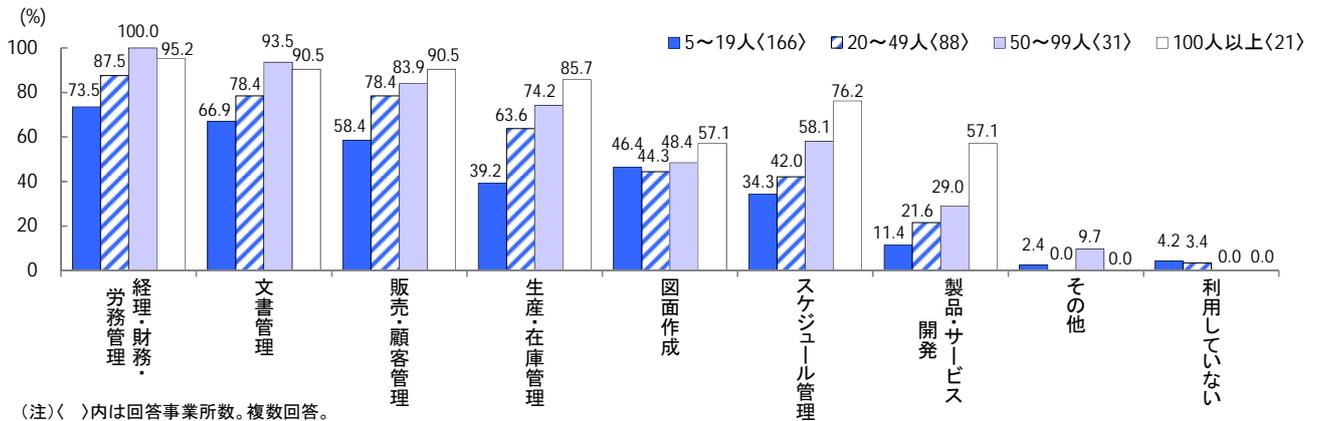


図 11. パソコン・スマートフォン等の社内業務での利用状況(規模別)



(3) 業務へのインターネット利用状況

インターネットの業務への利用状況を尋ねたところ、全体（回答事業所数は305）では「情報の検索・入手」（81.0%）が最も多く挙げられ、次いで「電子メールの利用」（68.2%）、「ホームページによる情報発信」（58.0%）、「ネットバンキングの利用」（54.4%）が多かった（図12）。これら上位4項目については、製造業、非製造業別という大きなくくりでみた場合は目立った差異はない。しかし、非製造業についてさらに詳しくみると、「ホームページによる情報発信」はサービス業では71.9%と全体平均（58.0%）を上回る一方で、卸売業や小売業は相対的に低めであった（図13）。小売業は「ネットバンキングの利用」（27.3%）が相対的に低く、「利用していない」（18.2%）事業所も多かった。

規模別で見ると、規模の小さい事業所ではインターネット利用を挙げる事業所割合が総じて低めであった（図14）。

図 12. 業務へのインターネット利用状況(業種別)

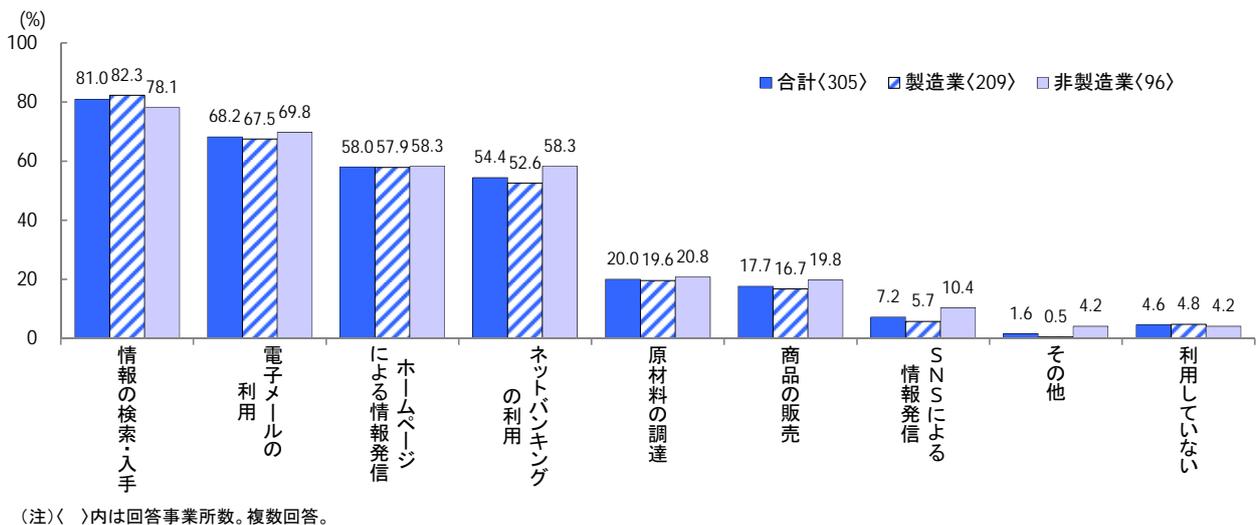
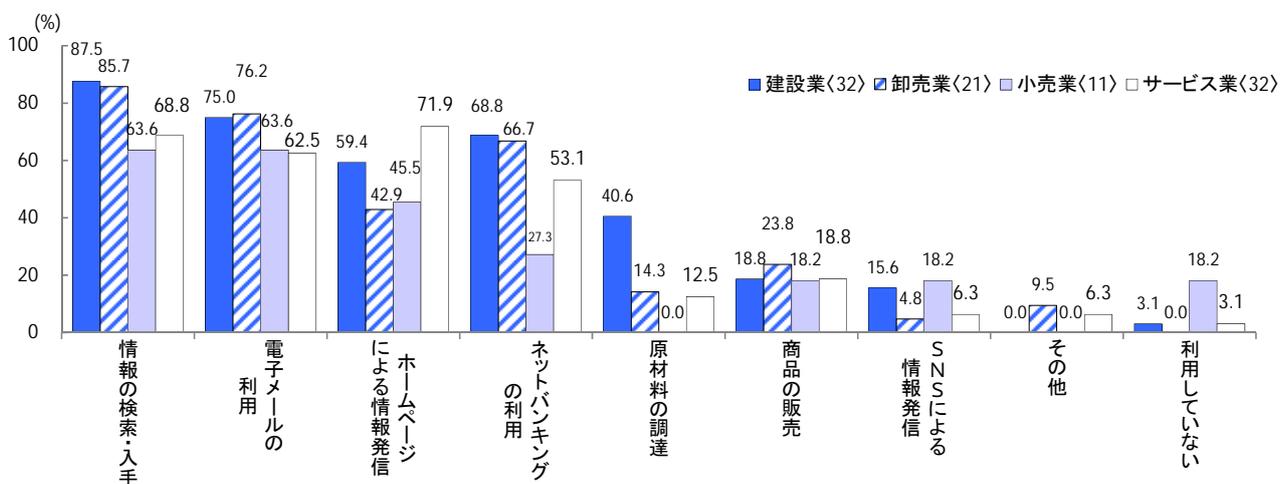
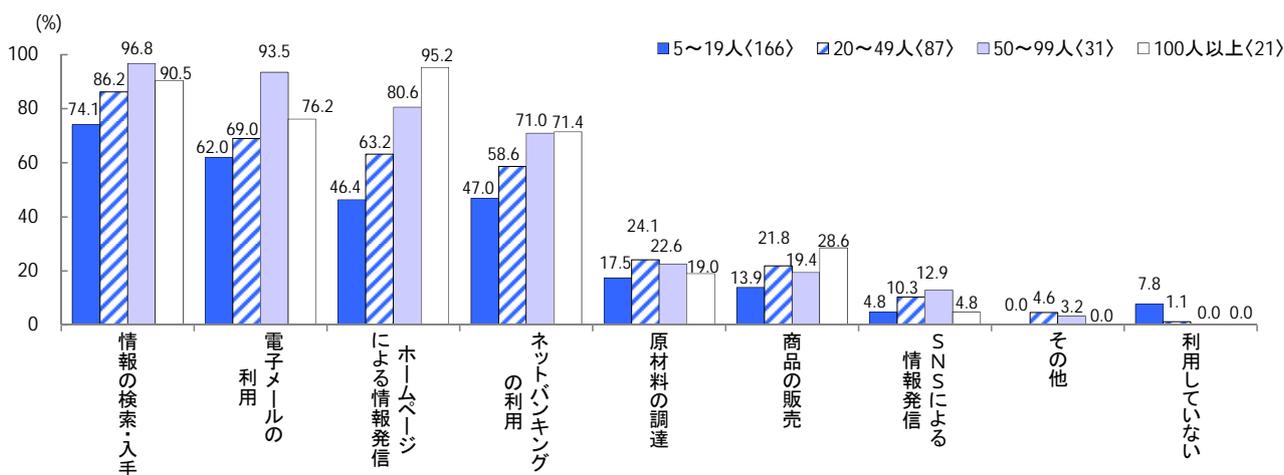


図 13. 業務へのインターネット利用状況(非製造業内訳)



(注)〈 〉内は回答事業所数。複数回答。

図 14. 業務へのインターネット利用状況(規模別)



(注)〈 〉内は回答事業所数。複数回答。

4. 経営上の問題点・業界の動向など

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	パソコン利用も一部の事しか使っていないので、もっと有効に使えたらいいと思う。
製造業	A	社員個々がインターネットを使って仕事を効率化しているとしても、その技量や役立て方が他から分からないので、管理する立場から気になる。社員の技量の平準化が困難な分野。
製造業	A	情報化のスピードが速く、対応するのが一苦労。
製造業	C	一般ユーザー様より、メーカー直売の要望が増大しており、ネット販売が伸びていくと思われるが、店頭販売は一部衰退の恐れ。
製造業	A	会社情報、個人情報を守る事が不可能な時代になったと思います。
製造業	A	リーマンショックの時と同じ景気になってきたように感じます。金融対策で国内景気が上向く事はないと思います。製造業の仕事を増やす対策が必要です。
製造業	A	先行きが不透明。
製造業	A	4～6月期は売れ行きがかなり落ち込み、7月、8月と回復はしているが、1～3月期の水準までに達していない。年末までこのような状況が続くのではないかと思います。
製造業	A	人手不足。
製造業	A	販促や技術系のセミナーを増やして頂きたい。
製造業	B	従来品の仕事が、減少傾向で止まった様です。新規の仕事が落ち込みをカバー。しかし、収益確保がいまだ困難。
製造業	A	良いのか、悪いのか・・・とにかく不安定です。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	今年はまだ最低賃金が約20円UPのため、パート主体なので毎年困ります。
建設業	A	データ通信費が高い。
建設業	A	求人倍率がUPした。でも良い人材は少ないですね。
卸・小売業	A	ネット販売、ホームページ作成が必要。時代の流れ。
卸・小売業	A	今年になって売上が減少し、景気が大変悪くこの先どうなるか心配です。今月に入り材料の入荷が難しいものも出てきました。
卸・小売業	B	建築業界はなかなか良くなりません。
サービス業	D	昨年度よりバスの料金が見直され、運賃が高くなったが、利用者が減少している動向がある。

規模

A = 5 ~ 19 人、 B = 20 ~ 49 人、 C = 50 ~ 99 人、 D = 100 ~ 299 人、 E = 300 人以上

コメントは、できるだけ原文のまま掲載していますが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合があります。また、調査を実施した2016年9月時点での表現となっています。

 **八尾商工会議所**

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>

 **八尾市** 経済環境部産業政策課

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>